
帰国渡日児童生徒つながる会

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

- ・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」
- ・目的

現在京都府内の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような子どもたちは、言葉や文化が違うということから、他の日本人の子どもたちとのコミュニケーションが上手いかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。また、彼らの学校に「外国につながる児童生徒」が少ないことも多い。そのため、悩みを相談できる人がおらず、一人で抱え込んでしまうこともある。つながる会は、同じ境遇にある子どもたち同士が出会い、共に活動する場を提供している。そして、その場を通じて彼らと同じようなことに悩んでいる人がいるのだと知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ること、また一人一人が持つ個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身がその国の言語や文化を大切にできるようになることを目的として2008年度より e-project を利用し活動を続けている。

去年の活動の大きな反省点として、スタッフの拡充があまりできなかったことが挙げられた。しかし、今年は7人ものスタッフが新たに活動に参加してくれることになった。そのため今年はスタッフの多さを活かし、野外活動など、同じ境遇を持つ子ども達同士が新たなつながりを持ちやすいような活動を行うことを目的の一つとしている。

2. 代表者および構成員

・代表者
妹尾花菜子 教育学専攻 3回生

・構成員

嵯峨根早紀	教育学研究科学校教育専修	1回生
細見真莉子	教育学専攻	4回生
上田美彩瑛	幼児教育専攻	4回生
北岡 知佳	英語領域専攻	4回生
山下 舞子	国語領域専攻	3回生
石山 佳穂	体育領域専攻	3回生
川勝 柚香	社会領域専攻	2回生
村上 舞	国語領域専攻	2回生
坂本有里紗	国語領域専攻	2回生
山下真衣香	幼児教育専攻	2回生
服部 雅一	英語領域専攻	1回生
今井 葉月	英語領域専攻	1回生
安藤 勇貴	英語領域専攻	1回生
石井 千春	国語領域専攻	1回生
渡辺 優	国語領域専攻	1回生
鳴橋 杏里	国語領域専攻	1回生
岸田 茉莉	国語領域専攻	1回生
李 ルイ	留学生	

3. 助言教員

浜田麻里先生 (国文学科)

第2章 内容や実施経過など

1. 実施経過

4月	新入生勧誘 たけのこ会実施
5月	夏の活動を企画 たけのこ会実施
6月	夏の活動内容検討 たけのこ会実施
7月	夏の活動内容決定 夏の活動準備 たけのこ会実施

- 8月 友愛の丘で夏の活動を実施
青少年活動センターで夏の勉強会実施
- 9月 たけのこ会実施
- 10月 たけのこ会実施
- 11月 冬の活動内容検討、決定
たけのこ会実施
ヒューマンフェスタ参加
- 12月 大学において冬の活動実施
- 2月 たけのこ会実施

2. 実施内容

(1) たけのこ会

日時：4月24日

5月8日

6月12日

7月10日

9月11日

10月9日

11月13日

14時から17時まで

場所：京都市地域多文化交流

ネットワークサロン

内容：

つながる会では、今まで月に一度フィリピン人団体「パグアサ」と連携し、主にフィリピンにルーツを持つ小中学生・高校生の学習支援を行ってきた。14時から16時半までは、それぞれの子どもたちが持ってきた課題（学校の宿題、教科書、問題集等）をすすめる。その間、随時学生がフォローに入り、個別に指導を行う。

今年度は、たけのこ会を月1回、第2日曜日に行った。活動には、小学生から高校生までの子どもが参加した。スタッフは、小学生とは漢字の宿題をしたり、九九を覚えたりし、休憩時間には近くの公園で一緒に遊んだ。中学生・高校生とは古典や数学や社会の勉強をした。

また、日本に来て間もない子どもたちには、自分の名前を平仮名やカタカナで書く練習や、身の回りにあるものを日本語で言うゲームなど、日本語の習得に向けてサポートをした。

(2) 夏の活動

日時：2016年8月13日、16日

場所：13日 友愛の丘

16日 伏見青少年活動センター

内容：

13日には野外活動（流しそうめんなど）、16日には勉強会を行い、基本的に子ども達とスタッフは、両日ともに活動に参加した。13日には、野外活動が得意なつながる会の構成員でない学生に当日スタッフとして参加してもらった。

<13日>

スタッフは7時半に大学に集合し、打ち合わせを行った。9時15分にJR藤森駅、京阪墨染駅へ子どもたちを迎えに行った。

大学に戻り、貸し切りバスで友愛の丘まで移動した。移動中には、レクリエーションとして、風船に貼ったテープを剥がす速さを競うゲームを行った。ハラハラしながらテープをめくっていき、風船が割れると悲鳴と共に楽しそうな声があがっていた。

1時間ほどで友愛の丘に到着し、まず初めに竹をのこぎりで切って、食器づくりを行った。竹を切るのは難しい作業であったが、当日スタッフとして参加してくれた学生が適切に子どもたちに声を掛け、必要に応じてアドバイスをしたり、場合によっては手を貸したりしてくれたので、スムーズに進めることができていた。次に、スタッフが起こした火で焼きそばを調理してもらった。焼きそばが焼きあがると、みんなで流しそうめんをしながらの昼食となった。流れてくるそうめんを上手くつかむのに夢中になり、楽しそうに食事をする様子が見受けられた。

昼食の後片付けを全員で行った後は、広場でレクリエーションを行った。同じ学校以外の子のことも気にかけて、みんなで仲良く遊ぼうとする良い雰囲気の中で遊べており、ドッジボール、はないちもんめ、なんでもバスケット、スポーツかるたなど色々な遊びで盛り上がっていた。全員で身体を動かしている時は、常に笑顔がたくさん見られていた。

その後、参加した子ども達に、楽しかったことや次回やりたいことなどを尋ねるアンケートに記入してもらい、貸し切りバスで大学まで戻り、解散した。

<16日>

スタッフは8時45分に集合し、9時15分に近鉄丹波橋駅、京阪丹波橋駅へ子どもたちを迎えに行った。子ども達と一緒に伏見青少年活動センターへ行き、そこから休憩をはさみながらも13時まで勉強会を行った。子どもたちは主に学校で出された夏休みの課題に取り組んでおり、随時スタッフが子どもたちに声をかけながらフォローを行った。日本語があまり理解できない子もいる中で、スタッフが隣について丁寧に教え、だんだんとコミュニケーションもとれるようになっていった。

昼食後は、武道場でスポーツかるたやだるまさんが転んだなどのレクリエーションを行った。年上の子がリードして進める、子どもたち同士で中国語を使ってルール説明をしあうなどの様子が見られ、遊びを通してとても仲良くなっているように感じられた。その後、アンケートに記入してもらったあと、16時ごろに解散した。



(3) ヒューマンフェスタ

日時：2016年11月13日

場所：京都テルサ

内容：

ヒューマンフェスタに今年も参加させていただいた。今回もブース設営により、子どもたちの現状やつながる会の活動を紹介した。

今回のヒューマンフェスタでは、人員不足であったため、昨年行った舞台上での発表ができず、注目を得られる場面が減ってはいいた。しかし、常時ブースにつながる会のメンバーがいることができ、ブースを回っておられる方に直接気になることや興味を持たれた点を詳しく説明したり、お互いに取り組んでいる活動を交流しあったりといったことができたのがよかった。また、去年のブース展示にも改良を加え、絵や写真だけでなく、めくると答えが書かれている〇×クイズを設置することで、来場者に興味を持ってもらえるように工夫した。

ヒューマンフェスタ会場の様子



(4) KBS京都 サンクス65 京都府 Presents 共に進める 人権のまちづくり

・実施内容

日時：2016年12月17日(土) 12:00~13:00

場所：KBSホール

ラジオの公開収録に、外国にルーツをもつ子どもたちの人権の課題について取り組んでいる団体として、つながる会は出演した。「多文化共生社会の実現」をテーマとして、帰国渡日児童生徒つながる会の取り組みや外国にルーツを持つ子どもたちの人権の課題について

て話した。ラジオというメディアを通して、多くの人にこれらのことについて知ってもらえる貴重な機会となった。生放送であったため、時間の関係により、予定していたことをすべて伝えることは出来なかった。しかし、事前に用意しておいた原稿をもとに、つながる会の活動の目的や内容、活動を通して感じている子どもたちのことや、つながる会存在を多くの子どもたちや関係者の方に知ってもらいたいという願いは伝えることができた。

今回、このような機会が持てたことで、自分たちが関わりを持っている子どもたちの抱えている課題について、改めて見つめ直すことが出来た。そして自分たちの感じていることを誰かに届けることが出来た。私たちからは見えないラジオの視聴者に加えて、会場には人権の問題に関心のある大勢の観客がKBSホールの席を埋め尽くしていた。そんな中で、普段の活動の中で感じていた、子どもたちの教育を受ける権利が十分には保障されていないのではないかという主張ができたことは本当に良かった。活動の中にある勉強会では、家庭学習に苦勞している様子がいつもよくうかがえる。そのことを具体的なエピソードと共にラジオを通して広く放送できた。会場の観客の驚きともとれるような表情やうなずきなどの反応から、何かは伝わるものがあったらうと感じた。今後、つながる会の参加者が増えたり、外国にルーツを持つ子どもたちの抱えている課題について取り組む人が増えたりすることを願う。



(5) 冬の活動

日時：2016年12月28日

場所：京都教育大学 A1 講義室、調理室、
内容

スタッフは朝8時に集合し、当日の活動スケジュールの確認と子供たちの情報の共有、勉強会の準備

を行った。9時までに、子供たちの集合場所である本校正門前・京阪墨染駅・JR 藤森駅に二人ずつ学生が向かった。

到着後順番に名前を確認するとともに、テープを配布し名前を書いてもらい、名札としてつけてもらった。学生も同様に、呼んでもらいたい名前を書いて貼っておいた。全員が集合するのを確認し次第席について勉強を始めてもらった。

同時進行で、この時間にお好み焼きのたねを準備しておいた。途中休憩を挟んだり、お菓子を配ったりしながら、集中力が切れないよう工夫した。やっている教科はバラバラであったが子どもたち同士で教えあう場面もみられ、充実した雰囲気となった。スタッフ側は、問題文を読み上げたり言葉の意味を説明したりすれば答えられる(ところもある)ので丁寧な指導が必要だと感じた。中学3年生が多かったためか勉強時間が長く、普段のノルマを大幅に上回る量をこなすことができた。

午前中の勉強会が終わると調理室へ移動し、事前に決めておいた班を発表し、お好み焼きの作り方の説明をし(といっても焼く手順だけだが)、各班に分かれて作ってもらった。何回か活動に来てくれている中学生の男の子をリーダーに指名し、班のメンバーをまとめてくれるようお願いした。照れながらもしっかりとリーダーシップを発揮してくれていたように思う。ほかのメンバーも積極的に仕事をこなしてくれた。まだ日本語が流暢でない子どもは母語が同じ子同士がスタッフの説明を通訳するなど、協力し意思の疎通に困ることはなく前回よりも笑顔が増えていたように思う。お好み焼きのトッピングには豚肉、海鮮(えび、いか)、チーズ、もちの4種類を用意した。班分けは子どもたちを4~5人ずつ3グループに分けて活動を行った。つながる会に参加してくれる子どもたちは、自分のルーツのある国の言葉のほうが日本語よりも得意であるケースも多く、同じルーツを持つ子どもたち同士のほうが話やすいので、仲良くなりやすいということと、豚肉を使う文化の国の子とそうでない子を分けるという点から考えて班分けした。そのため、今回はグループ分けを工夫し、同じ国にルーツを持つ子どもたちをある程度かためて同じ班にした。どの子もお好み焼きを

ひっくり返すのをとても楽しんでいた。

その後、勉強会をしていた部屋にもどり、福笑いづくりをした。作り方を説明し、紙とペンを渡すと、みんなさっそく作り始めてくれた。できた作品での交流のときには初めて参加してくれた子もほかの子どもたちと交流がもてとても楽しそうにしていた。その後集合写真を撮ってから、スタッフが朝の集合場所まで子供たちを送った。

学生のみで片付け・反省会を行い、解散した。



第3章 結果や成果など

1. たけのこ会

たけのこ会では、中学生の頃から勉強会に参加してくれていた子が、高校生になってもまだ参加してくれている。たけのこ会に、中学生時から高校生まで継続的に参加してくれることによって、スタッフとしては、外国にルーツを持つ子どもたちが進路選択や学校生活においてどのような壁にぶつかり、どのように乗り越えていくのかを知ることができた。参加者の子どもとしては、同じフィリピンにルーツを持つ同年代の子どもとつながることができ、進路や学校生活での悩みを共有することができるのではないかと考えられる。また、参加者の子どもが私達スタッフに学校生活の楽しさや悩みについて色々な話をしてくれたことから、彼女らが大学生のスタッフと話すことで、ふさぎこんでいた気分を晴らすことや、悩みの解決の糸口を見つけることができているかもしれない。

2. 夏の活動

夏の活動での成果としてまず挙げられることは、子どもたち同士がゲームに夢中になって場に一体感が生まれていたことである。

今までの活動では、参加者の子ども達はどうしても同じ学校の友達同士やもともと知り合いの子同士でかたまっていることが多かった。しかし今回は、スタッフが子ども同士の橋渡しを行い、みんなで遊ぶ雰囲気を作り出すことができた。参加者全員が協力して一緒に遊ぶことで、同じ境遇を持つ子ども達同士がつながるきっかけができたのではないかとと思われる。

2. ヒューマンフェスタ

今回のヒューマンフェスタでは、スタッフが不足しながらもブースに来てくださった方々に、つながる会について説明することができ、ブース自体も前よりも楽しめるように〇×クイズを用意して改善を図った。

結果として、多くの方々に帰国渡日児童について、またその実態や問題解決への活動を知ってもらおうという当初の目的に沿って活動ができたと言える。

4. 冬の活動

勉強会では、子ども達の目の前の問題である、学校の成績に直接関わるテストや学校の授業内容、また受験にむけての学習を私たちが手助けすることで、子ども達は学習意欲を得られたと思う。これからの活動でも、子ども達の学習意欲を高めていきたい。

お好み焼きは、ふだん家で食べないという子や初めて作った子どもにとって貴重かつ有意義な経験になったようだった。どのグループでも楽しそうにひっくり返していた。お好み焼きが苦手な子も居たが、好き嫌いに関わらず、協力して準備、片づけをし、何かをつくるということは子ども達にとって良い経験になったと思う。また、今回もある程度、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士を同じグループにしたので、前回までの活動よりも子どもたち同士の距離が縮まっていたように思った。

福笑いでは最初はなぜこんなことをするんだという顔をしていた中学生も最後は一緒になって楽しんでいった。日本の伝統的な遊びを通して子どもたちが班以外の子ともかかわれてよかった。最後に書いて

もらった感想の中には、今回の活動は楽しかった、というものや、次の春の活動もぜひ参加したい、というものがあつた。

第3章 まとめと反省、今後の展望など

1. たけのこ会

たけのこ会は、これからまた月に一度のペースで行われることが予想される。勉強会の際に、自分が持ってきた宿題が終わってずっと遊んでいるといった子どもの様子も見られたため、子どもたちの時間が余った時にも対処できるようにこれからは教材を前もって確保及び準備をしていきたい。

2. 夏の活動

今年の夏の活動で良かった点は三点ある。

一点目は、前もって友愛の丘に下見にいたり、各スタッフの当日の動きをタイムテーブルにまとめたりして計画的に準備をすすめることができた点である。

二点目は、スタッフの人数が去年に比べて多かったこともあり、貸し切りバス内でのレクリエーションや、調理器具の説明など、スタッフが自分の役割を持ち、さらにスタッフ同士が協力してスムーズに活動を進めることができていた点である。また、今回は竹を切る活動などがあり、つながる会のスタッフだけでは心許なかつたので竹に詳しい方にも協力をお願いして活動を助けてもらった。そのおかげで子どもたちもいい体験をすることができた。

三点目は、班分けを工夫した点である。班の中でリーダーとなりうる子どもの配置や、同じ学校の子ども達を固めすぎないことなど、様々なことに配慮をして班を決定した。

反省点としては、食べ物を扱うときの配慮が抜けてしまつていたことである。ムスリムの子どももいるので、材料にアルコールの成分が入っていないかの確認が甘かつたように思う。

3. ヒューマンフェスタ

今回のヒューマンフェスタは、つながる会にきてくれた方につながる会について伝えたいことの共有がスタッフの中でできていなかつたことが反省のひ

とつである。ブースに立つにあつてのスタッフの積極的な姿勢やスタッフ内での情報共有が必須になるだろう。一人でも多くの来場者に、つながる会の活動や、外国にルーツを持つ子どもたちの現状に興味を持ってもらうためにはどうすればよいのかを意識して改善に努め、来年のヒューマンフェスタをよりよいものにしたい。

4. 冬の活動

前述したように、今回はある程度、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士を同じグループにしたので、前回までの活動よりも子どもたち同士の距離が縮まつていたように思った。次年度の活動では、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士の仲をもっと深め、色々な話をするができるような間柄にすると同時に、違う国にルーツを持つ子どもたち同士も楽しく関わられるような活動の内容や活動の仕方を考えていきたい。また、今回福笑いをするというのはよいアイデアだつたと思う。次年度以降も、子どもたちが楽しみながら他の参加者と仲を深めていけるような活動を考えたい。

5. 今後の展望

今後は、さらに参加者の子どもたち同士が深いかわりを持てるようにしたい。そのために、活動時や勉強会の休み時間では、スタッフ一人ひとりが自覚を持って、子どもたち同士をつなげるような働きかけをしていきたい。

また、子どもたちの将来につながるような効果的な学習支援を行つていきたい。そのためには、月に一度のたけのこ会や、春・夏・冬に行われる勉強会に、子どもたちが継続して参加することが必要である。よつて、子どもたち同士が仲良くなることはもちろん、子どもたちとスタッフもよい関係を築いて、子どもたちが「またつながる会、たけのこ会の活動にきたい」と思つてくれるようにしたい。その上で、参加者それぞれの得意分野、苦手分野などをスタッフが共有し、子どもたちそれぞれに合つた長期的な支援ができるようにしていく。